

会 議 録

平成 20 年 7 月 15 日調製

審議会等名	平成 20 年度 第 1 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 20 年 6 月 5 日（木） 午前 10 時～午前 11 時 50 分
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	関委員長 六原副委員長 倉品委員 小林委員 桑原委員 宮島委員 杉野委員 名島委員 神田委員 欠席者 岡田委員 説明のための職員 長谷川市民部長 金子生涯学習課長 長谷川文化振興係長 指定管理者 太向館長 佐藤副責任者 後藤 林
市民憲章唱和	全員で市民憲章を唱和
協議題	(1) 平成 19 年度の利用状況について (2) 平成 20 年度 4 月以降の運営状況について (3) その他
市民部長	あいさつ
関委員長	今回から学校推薦の倉品先生と小林先生が交代されています。本年度から指定管理者制度がスタートして最初の協議会で、「(1) 平成 19 年度の利用状況について」「(2) 20 年度 4 月以降の運営状況について」という 2 つ議題があります。(1)の方は今年 2 月の協議会で 1 年間のまとめとして聞いておりますので簡単にお話しいただき、(2)の方を中心に進めたいと思います。
文化振興係長	協議題(1)について、資料 1、2 により説明
関委員長	大方の委員の方は以前に説明を受けているわけですが、倉品先生、新しく参加されて何かお聞きすることがありましたらお願いします。
倉品委員	いつも子どもの欄を見させていただいており、マイナスのところもありますが全体的には 933 人の増ということで、大勢の子どもたちがお世話になっているんだと、ありがたく思っています。
関委員長	長谷川さん、市内の学校の図書館見学とかボランティア活動の動きは、1 年間を通してどうだったでしょう。
文化振興係長	25 年前から、それまで全然なじみのなかったサービスを始めようと地道に努力をさせていただいて、ここ 10 年ほどは先生方にもずいぶんおなじみになり、たくさんの学校から声をかけていただいております。去年は「忙しそうだ」「指定管理者になるとどうなるんだろう」と、ご心配いただいたりご遠慮なさっているところもありまして、18 年度と比べると少々減ってしまったようですが、今年はまた回復するのではないかと考えております。

関委員長	下田方面では、自動車文庫の学校巡回が活発に行われているようですが、学校図書館協議会の方で先生たちのご意見がありましたら、またいろいろ出してください。ほかになければ協議題(2)へ進みたいと思います。いよいよ4月から指定管理者制度が始まって、6月に入ったわけですが、本年度に入ってから動き等を、館長よりお願いします。
館長	資料 3により説明
関委員長	4月・5月と2ヵ月が経過しての報告をいただいたわけですが、それぞれの委員さんの立場からご質疑やご意見がありましたらお願いします。
六原副委員長	本を選ぶことについて、指定管理人制度に変わり新しくなって、頑張っていらっしゃることはわかるんですが、本を選ぶのはどなたがされているのか。週にどのくらいこういうものを選ぶ、という会議をされているのか。部門別に専任者がいらっしゃるのか。また、以前に比べて量的にはどのようになっているのか、お聞きしたいのですが。
館長	定期的に何曜日に会議、ということまでは決められておりませんが、部門別に担当者を決め、予算を部門別に週で割り振り、進行が遅れないように調整しながら発注する方法を採っております。4月・5月のうちは主に責任者クラスが選定し発注が遅れ気味でしたが、今後は担当ごとの選定を軌道に乗せ、早く取り戻せるよう努力しようと思っております。
六原副委員長	先ほど説明にあった「ストック・ボックス」(SB)というのは、「今どういう本が出ています」というものなのでしょうか。
館長	毎週図書館流通センター(TRC)から『週刊新刊全点案内』という、新しく出た本の情報誌を送ってまいります。TRCでは、「こういうテーマの本は全国の図書館からどのくらい注文がくる」という統計を持っておりますので、それに基づいて、あらかじめ出版社からまとまった部数を仕入れ、在庫をいたします。それをSBといいまして、それを注文いたしますと、図書館用装備がされ納品されるのが非常に早いものですから、まずは新刊を早くご用意するために、その発注から始めた次第です。もちろん、新潟県や三条市にかかわる地域資料など、SBには入らないものも多いですので、それらも追って選定を進めているところでございます。
六原副委員長	専任の体制ができつつあるということによろしいでしょうか。多分以前の職員さんも部門別に定期会議をして選定を行っていたと思いますが、今おっしゃったTRC側で用意された本だけでなく、三条らしさや特性を考えて選んでいただきたいと思います。本屋さんではお店の人が本を読んで、「これはよかった」と思ったのを宣伝の基準にしたりしますよね。選ぶ人の個性があつていいので、魅力ある選書をしていただければと思います。
館長	偏ることは絶対ないようにしてまいります。また、量的な状況の件ですが、4月、5月は少々遅れ気味でしたので、この6月に何とか追いつくよう努力していきます。選書作業に限らず、全体的な業務すべてを軌道に乗せていくのが、6月の目標でございます。
関委員長	館長さんのお話で安心したんですが、出版界の事情をテレビでやっていました。今の出版界は自転車操業で、いいものであるが悪いものであるがどんどん本を出して

	<p>いく。そのために、本当にいい本、大事な本は部数が少なく、棚からどんどん消えていく。本屋さんには5,000部以上の本でないと並ばない。そういう事情のなかで本を選ぶというのは、本当に大変だと思うんです。特に新潟県や三条の本には、200部・300部しかつからない本があるわけですから、そういうものを逃さないで収集して欲しいと思います。</p> <p>実は先日、「新潟日報」の読書欄に、旧守門村の岡部清という77歳の詩人の方が紹介されていました。お百姓さんでもあり、30年前に『山奥のムラの証言』、今回『谷間のムラから』という詩集を出され、それが紹介されていたので、1冊送ってもらったんです。そういう本は、300部ぐらいしかつからないんですね。そして10年、20年経つと消えてしまって、その本を探すのは非常に大変になる。三条市立図書館にはそういうものもたくさんありますので、それをぜひ逃がさないで、県内の出版物も収集して欲しいと思います。</p>
宮島委員	<p>本の購入に関連して、リクエストに応えた本として資料に149冊挙がっていますが、これはどのくらいリクエストがあったうちの149冊なのでしょう。リクエストが来ても全部購入するわけにはいかないでしょうし、サービスといっても「何から何まで」は難しいと思うので、どのような基準でリクエストに応えているのか。リクエストがあった場合、それを定期的に皆さんで図って選ぶのか…。</p>
館長	<p>今回のご報告は、232件のリクエストに対して、購入に決定したのが149件ということでございます。リクエストにつきましても選書と同じように、その部門の担当者が図って判断してまいります。購入の判断は資料の内容によりますが、特に問題がなければ積極的にご希望にお応えするようにしております。ただ、ちょっと入手が難しいもの、また、高価なわりに今後の回転があまり期待できなさそうなものにつきましては、それにかかる費用でもっと多くの本が買えるという事情がございますので、県立図書館やその他の図書館からお借りすることもいたしております。</p>
関委員長	<p>ほかにございませんでしょうか。</p>
六原副委員長	<p>自動車文庫が各地を回っていますが、職員の方は毎回予定されているのでしょうか。というのは、専任体制で顔見知りの方が来れば、子どもたちは楽しかったり相談ができたり、もっと利用しやすいんじゃないかと思うんです。職員の体制、シフト、時間の調整とかがあって難しいのかな、今見ても大変そうだなというのはありますが、「今日はあの人がない」ということが実際あるので、調整していただくとありがたいです。</p> <p>専門的なノウハウや経験値を持った人を育てていただいて、アイデアや意見をお互いに出していく。せっかく民間の運営になったわけですから、民間だからこそできるサービス…「これまで不可能だったこれをどうやっていこう」という提案などを見せてもらえるといいですね。民間の運営管理者として新しいサービスや提案を提供していくことを忘れていてはないか、というのをすごく感じるんです。一生懸命やっていたらいいとは思いますが…見ていると本当にすごくわかるし、それだけに何か浮き足立っているのが大変だな、と受け取れる時があるんです。もう少し時間がかかるのかもしれませんが、できればどっしりと根を下ろした形でやってもらいたいなと</p>

	<p>すごく思います。指定管理に変わって、「以前のサービスは落とさない」という条件がありましたが、特にボランティアの人たちは、「どうなるんだろう、どういうふうに変わっていくんだろう」と見ていると思います。今はまだでも、専門的なことがわかる人を育てていくのが、以前のサービスを維持する意味でも大事なのではないかと思います。ボランティアにとっても利用者にとっても頼れる図書館になっていただくために、経験値をどんどん積んでいただきたい。それについては「努力をしています」だけではなくて、「こういうことをやっています」というのが具体的にあったら、聞かせていただきたいと思います。</p>
館長	<p>まず自動車文庫につきましては、いきなり新人が行っても勝手がわかりませんので、業務経験がある者を担当にしてスタートし、次の段階として新しいスタッフも加え、研修も兼ねて2人で回る形を取ってまいりました。ただ、ご指摘どおり勤務シフトというのがございます。自動車文庫は週4日間、月曜日以外の毎日回っているわけですが、勤務日の調整もあり、同じコースに必ずしも同じ人間が行けるとは限らないことになってきたと思います。これは自動車文庫に限らず、例えば下田分館も本館と交代で何人かのスタッフが行っておりますが、固定でないとなかなかお客さまにおなじみいただけない、というご指摘をいただいております。ですから、勤務体制とバランスを取りながら、主にそれを担当するスタッフをどう固めていくか、自動車文庫の体制も再度考えているところでございます。できるだけ同じ地区に同じ担当者が行って、お客さまにおなじみいただけるような工夫、努力を、さらに検討していく必要があると思っております。</p> <p>ボランティアさんの担当につきましても、中心の人間が毎回必ずいるにこしたことはないのですが、なかなかそうはいかないと想定して4人の担当者を決め、全員が連絡を取り合い誰でも同様に対応できるようにと考えたわけでございます。現在のところはむしろ、担当者のほうから自主的に「この日はグループの活動をお手伝いしたいので出勤に変えてほしい」と申し出てくれておりますが、今後は中心メンバーがそうした日にできるだけいられるよう、シフトづくりをしていきたいと思っております。</p>
六原副委員長	TRCさんで独自に、講習会とか勉強会は実施されていますか。
館長	<p>今月の下旬、三条市だけでなく新潟市、長岡市のスタッフも集めた合同研修会を予定しておりますし、先月新潟県立図書館で主催された新人職員研修にも希望者を参加させました。そういう機会を、TRCとしてもつくり、外部主催の機会にも積極的に参加させていくことを考えております。</p> <p>4月、5月と経験してまいりまして、まだまだ途上のところがございますし、正直に申しまして、これまでは市から引き継いだ業務を自分たちの仕事としてこなしていくのに懸命だったレベルでした。早くそれを一人前にし、新しい事業に取り組みしていくように、次のステップに進まなければいけないと思っている段階でございます。</p>
関委員長	<p>今のことも一つの例なんですけど、たったふた月で、動かすだけで本当にまだ大変だと思うんです。指定管理になったかもしれないけれども、図書館は三条市民のもので、この委員会の働きとしても、図書館が前よりよくなっていければいいわけです。いろいろ提案したり指摘したりといった働きを大いにやって、みんなで三条の図書館</p>

	<p>をよりよくつくっていく。</p> <p>できるかできないかは別にして、例えば「三条歴史研究会」ではボランティアの人が希望者を集めて、良寛さんの道を説明したりしています。僕が図書館に行って、「三条でどんな本が出て、どんな執筆者がいたんですか」と質問しても、ほとんど答えられないと思いますね。そういうことがわかるコーナーがかつては図書館にあったんだけど、今はない。目録みたいなものがあればわかるけど…。</p>
文化振興係長	<p>新しい方にそうした町の経験とか知識がないのはご容赦願いたいことですし、データを検索すればいいと言っても、字が1つ違う、最初の文字が違うだけで見つけれないことが多々ありますので、4月になって館長さんと、目で見える冊子体の目録をつくった方がいいでしょうというお話をさせていただきます。あと、「こういう研究がしたい」というお申し出が特にあれば、以前も書庫をご案内して、郷土資料をご覧いただいております。書庫に入ってくださいこともご相談次第では可能かと思っておりますので、そういう利用の仕方でもできるかと思っております。</p>
関委員長	<p>はい、わかりました。例えば歴史研究会の方が良寛の道をボランティアでご案内するように、それぞれ好きな人がいますから、月に1回でも「図書の何でもお答えします」というようなコーナーを設けて、例えば「三条でどんな本を書いた人がいるんでしょうか」といったことを、僕が知っている範囲で調べてあげる...というように、図書館のひとつの活性化として考えられますよね。そういうアイデアをどんどん表に出していければ、太向さんたちも今後、「三条市民ってこういう本を望んでいるのか」というのがわかっていいんじゃないか。そういう意味でもこの協議会がプラスになっていくのかなと、話を聞いていてふと思いました。</p>
六原副委員長	<p>サービスとスピードは民間のTRCに期待するところなのですが、今まで図書館におられた職員さんの持っていたノウハウや知識...それもスペシャリストですよ。それを失ったことは大きいです。「スリーS」のさいごの「S」をスマイルで終わらせないで、スペシャリストになるべき体制を整えていただきたいと思っております。</p>
関委員長	<p>毎日図書館に来ている人がいますが、ああいう人たちはただ読むだけじゃなくて、しゃべりたい人も結構いると思うんですよ。「俺は時代小説だったら書架のほとんどを読んだよ」という人がいるんじゃないかと思うんです。だから声をかけると、喜んでやる人もいるかもしれません。そういう人を引っ張り出して活躍の場にするのも、図書館のひとつの仕事なんではないかと思いました。</p>
神田委員	<p>まず第一に、先ほどお話が出たスタッフの方ですが、下田分館では大体2~3人でやっているらしいですね。順番だからなかなか大変だと思いますけど、なるべくなじみの人がいいのでなんとか固定して、「下田はこの人たち」と決めてやっていただくといいかと思っております。</p> <p>第二に、先ほど関先生がおっしゃいました旧守門村の岡部清さんの詩集には、私もすごく興味を持っておりました。あれはまさしく、下田の奥地の人たちに通じるものが込められていると思うので、ぜひ下田に1冊入れていただきたいです。</p> <p>三番目として、下田で毎日、どういう人が来てどういうふうに着いていくのを見ていると、若い親子は来るんですが、残念ながら高齢の方の常連客がいない。そういうこととあわせて、下田公民館で「こもれび」という広報を毎月出しています</p>

	<p>が、そこに図書館情報として、こんな本が入りましたとか、「この本は中高年の方に絶対お勧めだから、ぜひ借りに来てください」とか紹介してはどうでしょうか。戦前の人たちは、図書館というのはどうやって借りるのかわからないんです。自分たちも利用したいのに、「ここで見てもいいんですか」なんて聞いたり、貸出カードをつくってもらうことがわからない人もいます。そういう現状です。図書館というのは、高齢の人たちにはちょっと敷居が高い。だから、その辺を掘り起こしてもらいたい。この表を見ますと、嵐南と栄は、中央図書館（本館）にもひんぱんに来られるから、貸出数は少ないんです。この2つを合わせたのと、下田の4月、5月の貸出数がほとんど同じ。でも、もっともっと増えなきゃならんと私は思うんです。そういう人たちを開拓するためには、民間になったのですからもっとやわらかく発想を変えて、やってみてほしいと思います。</p>
六原副委員長	下田はせっかくだいいい館になったのに、人がよく変わると聞いて、もったいないなと…。
神田委員	できれば専任の方がいいですね。
六原副委員長	やはり顔見知りがいると行きやすいし、借りやすいと思います。
館長	かねてからそういうお声を聞いておりましたので、検討いたします。
関委員長	この間、下田の図書館に行って、本館にはない本を見つけて借りてきたんです。あまり人が読まない本で、明治時代の女性歌人の書いた本なんですが、本館にはないんだね。だから捨てたもんじゃないんですよ、普通ではない本があるんですよ。だから、やはり本棚に並べておくことが大事ですよ、図書館は。とんでもなくいい本がいっぱいあるんです。
神田委員	それから下田には、下田の方の出版した本とかがたくさんあるんです。漢学の里にはあるけれども、図書館にも一つのコーナーにまとめていただくといいのではないかと思います。私が読みたいのはそれなんですよ。そういう郷土の出版物ですね。
関委員長	<p>小田大蔵という新潟県の文学を研究している人がいて、いろいろ本を編集したり、研究者でもあるんですが、この間『越後文学撰集』第5集というアンソロジーを出したんです。第1巻というのは1948年に出しているんですが、そのときはまだ越後文学会が三条文芸懇談会という名前で、吉川英治が序文を書いています。相馬御風なんかが序文を書いている大変な本で、たった5冊しか出てないんですが、その本が見たい。どこに行けばそれを見られるか、図書館に行けばきっとあるだろうということで、早速とんできて検索したら、3冊あったんです。そういう隠れた本があるんですよ。ほとんどの人は読まないものですが、歴史的にはすごく大事な本がある。そんな本がもし三条の図書館になかったとしたら、ものすごく恥ずかしい話になります。国会図書館にあるかどうかはわかりませんが、やはり図書館は、そういった文化を蓄積する場所ですので、そういうのを大事にしておかないと、みんな消えちゃうんです。消えていい本もたくさんあるけれど、消えちゃいけない本もある。図書館にはそういう、大変な使命がある。</p> <p>数年前、栄の図書館が公民館の中にできたときに、小村定吉さんという栄の人の展示会をやりました。公民館に寄贈してあったのを、合併したので展示会をやったんですが、本人から寄付されたもので、そのコレクションは日本中探したってここにしか</p>

	い。バラバラにはあるけれど、あれだけまとまったのはどこを探したってないはず。そういうのを、何かの広報とかに「こういうのがありますよ」と載せたり、活用していくのがとても大事だろうと思います。
神田委員	中高年の方には本当に本に親んでもらいたいと思っていますけれども、なかなか来る人がなくて…。だから、「こもれび」に毎月でもいいから小さいコーナーを一つ設けてもらおうと、結構いいんじゃないかなと思います。そうじゃないと、新しい館にしたけども皆さん全然なじまないから。下田の場合は見えていますと、ほとんど若い親子で…。逆にそれはいいことですけどもね。
関委員長	そういうように、方法がいろいろとあります。今急にやれということじゃないですけど、三条の地名なら杉野さんという大ベテランがいらっしゃるし、みんないろいろな人がおりますので。そういうことでこの協議会も、いろいろなことを提案したりして、図書館が良くなるようにしていきたいと思います。ほかにございませんでしょうか。
杉野委員	読書会なんですけど、指定管理者に移行するとき、読書会の皆さんを集めて説明会をされました。ああした横の連絡会のようなものを、1年に1回か2回でいいんですがしていただけると、読書会をやっていらっしゃる皆さんの共通課題等もありますし、自分だけ抱えている問題等が共通の認識になり、いろいろ手助けいただきたいという方向に持っていけます。また、隣でやっていらっしゃる活動などもわかると、自分たちへのフィードバックになりますので、そんなにしょっちゅうでなくてもいいですから、横の連絡会みたいなものをやっていただければと思います。
館長	かしこまりました、ご要望ありがとうございます。私どもも、それぞれのグループのいろいろなお手伝いはさせていただいているつもりですが、おっしゃられたとおり、全体として図書館に対しお持ちになっているご要望とかを皆さんから同時に何うというの、ありがたい機会だと思います。
関委員長	厳しい意見ですけど、もっとオープンにね、何でも言ってくださいというような感じで。それが良さだと思うんですね。
倉品委員	本当に今年は大きな変換の年だったんですが、市内の図書館団体の職員の先生を集めた学校図書館協議会という会がありまして、先月総会を開きました。そのときにも来ていただいて十分な説明をいただき、安心して閉会したんですが、(指定管理者に)変わっても今までのサービスは保証しますよ、もっと充実したものにしますよ、という力強いお話をいただき、ありがたかったです。ここに書いてありますように、お話の出前サービスだとか、図書館見学、学校訪問、これらを本年度もお願いしたいと思いますし、現にこの前は当校で親子読書会があったんですが、そのときは講師派遣ということで来ていただいて、読み聞かせの講習もしていただいて大変ありがたかったです。今後ともさらに発展するような連携を取っていきたいと思っています。
生涯学習課長	下田公民館の「こもれび」ですが、今も図書館とか読書会についての記事を載せておりまして、名島さんから活動を紹介してもらったことがあったと記憶しているんですけども。漢学の里の紹介でしたでしょうか。
名島委員	そうです。

神田委員	三条市になったら、公民館だけの広報みたいになっちゃったんですね。図書館のことが何も入らない。公民館の方をお願いしてもらいたい。
生涯学習課長	公民館のほうに伝えておきます。
関委員長	よろしいですか。では最後、「その他」にいつて終わりにしますが、ありますか。
六原副委員長	<p>栄分館の件ですが、関委員長がおっしゃったように三条の図書館を良くしていく意味で、「図書館協議会って何だろう」と考えたんですね。指定管理のときに調べた資料を探したんですが、その中にも「分館、閲覧所、配本所等を設置し、及び自動車文庫、貸出文庫の巡回を行うこと」というのが図書館方針の中にあるんです。図書館奉仕をする館長に対して諮問が行なわれるように委員も意見を述べて、新たに協議をする。協議会ですので協議をする。あるいは、次第や議事にきちんと載せる。指定管理の規定のときもそうだったんですが、決まった事項の報告だけであれば協議会はあまり意味はないのではないかと、と前から思っていたんです。決定する前に「こういう方向性になっている」と、きちんと議事に挙げてもいいのではないかと。新潟市立中央図書館にも準備委員会や協議会があって、その会議録も調べさせていただきましたし、三条市のも取り寄せました。それによると、三条市の協議会の内容は随分簡素化されたものなんです。指定管理者に替わったので、今、多分気にして見られている方が多いと思います。でも、三条市の議事録を見ると、「こんな簡単で終わっていないはずなのに」というのがあるんですね。それで他所のを調べてみたら、新潟市立中央も燕市もちゃんと載せています。また議題も、平成17年度から調べると、「中央図書館の進捗状況」とかきちんと載せてあるんですね。そういう形で議題に載せると、委員のほうも準備をして、「こういうことを話し合うんだったら、ちゃんと調べて協議をしなきゃ」という気持ちになるんですが、今までのを見ていると、協議する内容は「その他」になっていて、委員のほうも何の準備もしていませんから、「ああ、そうですか」と聞くだけで、協議する余地がなかったんです。ですので、できればきちんと協議できるように話し合いができるといいと思います。委員としても、意見を言ったり協議ができる場にしないと、この協議会自体「何が本当に必要なのかな」と、必要性自体を疑ってしまうんですね。</p> <p>そして議事録なんですけれども、せっかく指定管理に替わりましたので、簡単に書くのではなく、きちんとした形で残すようにしていただきたいと思います。そうすることで、私たち委員も勉強するし、発言にも責任を持つようになります。他所は本当に勉強して答えているんですよ。議題に載せなければ、何の勉強をしていいかわからなくて、もらった資料を見て疑問点を質問するくらいしかできませんから、ちゃんと話し合いができるようにふたをしないで、いろいろな人の意見を聞けるような協議会にしていただきたいと思います。切に思います。</p> <p>特に栄の件は、合併前からの命題なんですね。ですから、できればそれに参加したかったし、せっかく協議会にいるんですから、協議会の意見としても取り上げてもらいたい。いろいろな方の意見をあげてもらい、それを審議会のような機関にきちんと伝えて一緒にできたらな、というのが理想です。パブリックコメントでも出ていると思いますが、今のところそれに意見をやるしかない状態ですよ。そして、今日</p>

	<p>もこの話はスルーされるのかな、というのがありましたので、協議ができる協議会にしていだきたいのです。パブリックコメントで意見を出す、そして協議会でもこの話をしてもいい...と言っはおかしいんですが、議題として挙げて話し合ったものときちゃんと均等に、いろいろな意見を取り入れていっていただきたいと思います。分館の場合は図書館だけでなく、子育て支援もありますから、協議会では出さなくていいと思っいらっしゃるのかもしれないですが、栄分館は三条市立の図書館になるわけですので、協議会が協議もしないで結果だけ聞くのは、やはりおかしいですよ。</p>
関委員長	<p>以前、県の協議会の集まりのときにも、こういう話が出たんです。みんな協議会という名前だけれども、それぞれ市町村によって性格が違うんですよ。その話になって、市町村によって違うのに、協議会という同じ名前でやっているものだから、話がなかなかみ合わなくて...。だから、六原さんの話とかかわらせて言えば、三条の協議会の性格って一体どうなんだ、ということだよ。</p>
六原副委員長	<p>必要性という意味では、必要なんでしょうか。...と言っはなんですが、図書館法では確かに「協議会を置くことができる」と定まっていますよね。「置くことができる」というのは「置かなくてもいい」のこなって今までは思っいたんですが、それだと私たちの存在価値とか理由もなくなってしまうので、図書館法という法律で決まっているなら、「置くのがベストである」という解釈をさせてもらいます。そういう意味で、せっかく委員になったんですから、必要なことを協議できる協議会にしてほしい。検討すべき大事なことがあるのに次第に載っていないという状態で、何を協議しなさいというのかなと、ちょっと疑問に思っいました。いろいろな協議ができると思っ私は参加したので、「もう公表して決まっているからこれでやるんだよ」というような今までのやり方ではなく、新しい運営になったわけですから、ちゃんとした協議をしていくべきなんじゃないかと思っます。うるさい文句ばかりではなく、いい意見はいっぱい出ると思っんですよ。それぞれの立場もあるし、学校側の立場からもたくさん意見もあるし。だから、使いやすく、頼りになって、三条市らしい図書館をつくっていく意味でも、ぜひちゃんとした協議会の形を、と思っます。</p>
生涯学習課長	<p>図書館の運営についての全般的な意見をいただきたいというのは、もちろん図書館協議会の役割と思っしておりますし、指定管理者になるにあたって図書館協議会自体がなくなるのではないかという心配をされたこともありました。それは図書館運営をやる上で市民からの意見が必要であろうということで、きちんと残したわけです。図書館全体の運営についてのお話、貴重な意見を頂戴していきたいというのは、変わるものではないと思っしております。栄分館についても、時期を見ましてお話しさせてもらいたいと思っしております。まだ予算化もはっきりしないわけなんです。図書館構成であるとか、どういった点に気をつけたらいいのかという意見は、いただいきたいと思っしております。パブリックコメントを、今子どもの拠点づくりと一緒に出してありまして、できればその中でもご意見をいただきたいと思っしておりますが、またあらためて、レイアウトなどの話もさせてもらいたいと思っしておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
六原副委員長	<p>会議録なんですけれども、省略の仕方ですと正確に伝わりません。特に指定管理者になりましたので、住民の関心とかも高いと思っんです。また、知っている方は特に関</p>

	<p>心を持っていますので、ぜひきちんとした形で、正確に公開していただきたいと思います。</p>
生涯学習課長	<p>会議録につきましては、一字一句載せるというのが基本的なことなのかもしれませんが、意味がダブっていたりしたところを、以前の図書館でまとめていたんだと思いますが。</p>
六原副委員長	<p>変えていたというほどではないですが、すごくやわらかいまとめ方、穏やかなまとめ方をされていたので、「そんなつもりで言ったんじゃないんだけどな」というのが私もあって、正確に伝わっていなかったんです。本来であれば正確な開示をするべきだと思うので、よろしくお願いします。</p>
生涯学習課長	<p>それは、まとめた後委員長に閲覧いただいて、必要であれば副委員長にも閲覧いただいて、公開したいと思っております。お願いいたします。</p>
関委員長	<p>それでは、ほかになければ終わりにしたいと思います。よろしいでしょうか。今日は今年度の第1回目でした。倉品委員さんと小林委員さん、新しく加わられましたので、1年間よろしくお願いいたします。始まったばかりの2ヵ月で、いろいろ課題は山積みでしょうし、まだ不慣れなこともあるでしょう。下田と栄と合併しましたので、地域によっていろいろ土地柄も違うし、なかなか大変でしょうけれども、よろしくお願いいたします。これからもまたいろいろ提案等、ご意見申し上げます。ありがとうございます。</p>